

2020年度新制度入試への ロードマップ



佐藤雄太郎

新制度入試に向けた動きがだいぶ本格化してきました。英語について言えば、2019年1月早々に「英語成績提供システムの概要」が文部科学省より示され、試験によっては2019年度から実施できるよう準備が進められています。

新制度入試は、大学受験までのロードマップという点で「今のまま」というわけにはいきません。その点を中心に解説いたします。

■新制度入試の変更点～共通テスト中心に

2020年度からの新制度入試の変更点として、共通テストに話題を絞ると、国語と数学に記述式が導入され、英語には「民間団体による資格・検定試験（以下、外部試験）」の成績が活用されます。しかし、センター試験から教科目数（6教科30科目）に変更なく、また、（国語と数学を含め）マーク式問題も継続されます。外部試験も、大学入試に限った特別な問題が課されるわけではありません。

ただし、共通テストの試行調査を見る限り、2017年、18年と続いて「過程や手順を考えさせる問題」「学校の授業や活動の場面を想定した問題」が出題されています。これからは、「結果（答え）」だけではなく、学校の授業（例えば、理科の実験や数学の解き方、課題発表の手順など）を中心に、「過程や手順」について尋ねる問題が多くなりそうです。過程や手順が「どうであったのか」を含めた学習が必要と言えそうです。

■新制度入試の決め手は英語

新制度入試において、英語はいろいろと大きく変わります。ポイントに分けて解説します。

(1) 受験の仕方と日程の変更

現行入試においては、推薦・AO入試を除き、高3生になってからの翌年1月のセンター試験までに学習を終える受験生が最も多いのではないのでしょうか。新制度入試では、そうはいきません。というのも、共通テストで活用される外部試験の成績は「高3生の4月から12月の間に受検したもの」という制約があるからです。つまり、高3生の4月までには、一通り、外部試験を受検する準備を調べておく必要があることとなります。

このように言うと、外部試験は12月まで受検できるわけですから、「それまでに間に合わせれば」とお考えの方もいるかもしれません。しかし、大学受験は「英語」だけではありません。また、外部試験以外にも、“共通テスト”“私大入試”“国公立2次試験”それぞれの対策も必要でしょう。他教科も含めて十分な学習時間を確保しながら、学習計画を立てていく必要があります。

外部試験の受検準備を高2までにするのは別の理由もあります。外部試験の受検機会は、1回限りではありませんが、会場や日程に制約があります。2018年12月に文部科学省が公表した月別受検者の予想数を見る限り、6月に40万人が受検する見込みですが、他の月で受検者が殺到した場合、思い通りの時期や会場で受検ができないこともあります。さらに学校行事等で日程が合わないなどの想定も必要となるため、高3になっての「走り

ながらの対策」はできるだけ避けたいのです。

(2) 試験の種類

(1)で少し触れましたが、新制度入試では英語の試験種類が増えます。

- ①外部試験（成績提供）、
- ②共通テストで課される2種類の英語（筆記[リーディング]とリスニング）、
- ③私大入試、
- ④国公立2次試験が種類としてあります。例え

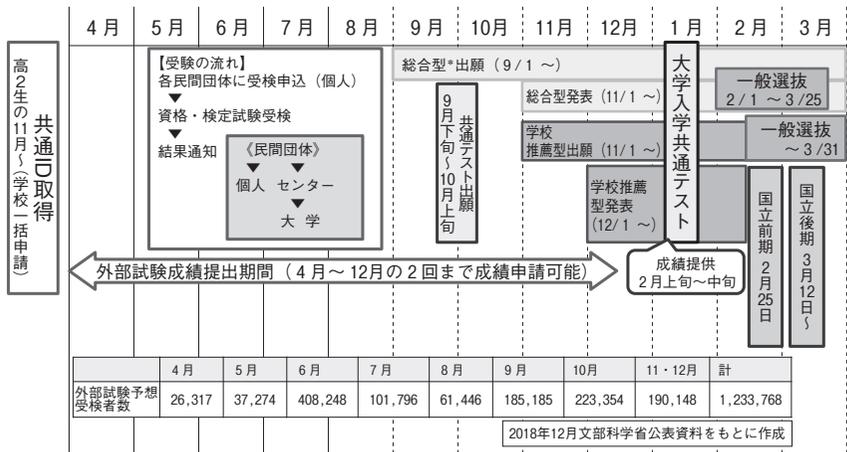
ば、国公立大を受験する場合、外部試験の成績+共通テスト（2種類）+2次試験となります。一方、私大は、多くが独自の問題のみを課します。しかし、早稲田大学や上智大学をはじめ、2020年度から共通テストや外部試験の成績を必要とする大学も発表している大学もあります。そのため、「全く不要になる」とは言い切れませんので、国公立大同様に、試験の準備をしておく必要があります。

外部試験は《英語が正しく運用できているかどうか》を測る試験です。一方、大学入試は《志望する大学が求める学力像にマッチするかどうか》が重視される試験ですから、4技能がバランスよく出題されるとは限りません。そのため、試験それぞれの対策が必要となるのです。

以上の点から、英語は、国公立大にせよ私大にせよ、試験種類が増えることから、効率良い学習が求められます。総じて、「読む」「聞く」「書く」「話す」について学習しなければなりませんので、英語については、普段からの学習の積み重ねが必要になると言えるでしょう。

(3) 志望大学を早い段階から決めておく

現在、多くの国公立大学では、外部試験の成績活用について、①出願要件か②共通テストの点数に加点のどちらかを条件として発表しています。



*総合型選抜：いままでのAO入試に相当

①も②も、CEFRを基準としており、①の場合、詳細を発表する多くの大学では「A2」以上としています。もしも、①とする大学を志望しても「A2」以上に達していない場合は、「その大学を受験すらできない」ことになってしまいます。なかには、高3生から準備しても間に合わない条件を課す大学もあります。生徒は、自分が受験する大学が「どのような条件を課すのか」という点にも、早い段階から目を配っておく必要があります。

■まとめにかえて

以上、共通テストや外部試験を中心に、新制度入試の解説を簡単にしてきました。制度面では大きく変わらないようでも、受験までのスケジュールや試験種類という点では、現在の入試から大きく変わります。そのため、受験までの日程を意識しながらの日々の積み重ねが大学受験に大きく左右すると言えそうです。学校の授業と家庭学習の時間を上手く利用し、外部試験や志望大学に関する正しい情報を得ながら、計画的な学習を心掛けるようご指導いただければと思います。

(さとう ゆうたろう・代々木ゼミナール教育総合研究所長)